香川県高松市
中心市街地活性化基本計画概要
【4期計画：令和7年4月～令和12年3月】

【目指す中心市街地の都市像】

これからも選ばれる中心市街地「たかまつ」へ
～持続的に成長する共創型まちづくり～

【自治体の概要】 人口：417,888人（R6.11.1・住民基本台帳）、面積：375.41㎢

・天正16年（1588年）生駒親正が高松城を築き、生駒4代54年、松平11代220年を通じて城下町として栄えた。廃藩置県後、香川県の県庁所在地となり、明治23年2月15日に市制を敷き、全国40番目の市として発展。中心市街地は四国の拠点として業務機能の集積、8つの商店街で形成された全国有数規模のアーケード街である中央商店街の商業機能や新たな都市拠点「サンポート高松」をもとに、経済活動が展開されている。

【中心市街地の課題等】

1）インバウンドを含む広域圏からの誘客力を高めていく取組

・環瀬戸内海圏の中核都市として、多様なニーズを持った人々が訪れたいと思える高次広域都市サービス機能を提供する場を創出し、広域圏から中心市街地を訪れる機会づくりを行うことが求められている。
・瀬戸内国際芸術祭の開催や高松空港国際線の運航再開によって観光入込客数は回復してきているため、特にサンポートエリアの開発に併せ、回復が期待されるインバウンド・観光需要に対応していく。
※観光入込客数　H30：2,744千人→R5：2,022千人（▲26%）

2）回遊・滞在できる環境整備により利便性を高めていく取組

・アフターコロナにおける、サンポートエリアの集客力と中央商店街の商業ポテンシャルの相乗効果を図るため、よりリアルな体験価値を創出するイベント・観光を通じてサンポートエリアと中央商店街の回遊性を高めることが課題。
・特にコンテンツが多数ある商店街では歩行者通行量・新規出店数ともに増加傾向に転じているため、回遊・滞在できる環境の整備を推進する必要がある。
※歩行者通行量　H29：92,639人→R5：122,935人（＋33%）
※新規出店数　H26～H30：216店→R1～R5：186店（▲14%）

3）来訪者だけでなくまちなか居住者の居心地をよくする取組

・中央商店街に期待することとして身近な買い物の場所が求められており、来訪者だけでなくまちなか居住者にとっても居心地をよくしていくことが課題。
・市全体の人口が減少傾向にある中でも中心市街地の社会動態は増加傾向となっているため、快適性・安全性を向上させる施策を効果的に実施することで更なるまちなか居住の促進を図る。
※中心市街地の社会動態　H26～H30：886人→R1～R5：960人（+8%）
※ことでん3駅の乗降客　H29：31,751人→R5：30,401人（▲4%）

4）官民共創モデル及び情報発信を支えるデータ連携基盤の活用

・データ活用・連携による中心市街地活性化に関する取組の相乗効果を生み出すため、ターゲットに応じた情報発信の仕掛けづくりが求められている。
・中心市街地活性化の活動そのものに参画できる人材や担い手を有機的に創出するため、人的プラットフォームによる共創モデルを構築・拡大していくことが求められている。

【計画目標と数値】

目　標	目標指標	基準値	目標値
みんなが訪れたくなる中心市街地	中心市街地内の宿泊者数	880千人／年(R5)	961千人／年（R11）
みんなが巡ってみたくなる中心市街地	歩行者等通行量(全日)	122,935人／日(R5)	125,739人／日（R11）
みんなが住みたくなる中心市街地	中心市街地の社会動態	960人（R1.4～R6.3）	1,004人（R7.4～R12.3）
これからも持続的に成長する中心市街地	データ連携基盤を活用した事業数	5件（R5）	10件（R11）

【中心市街地活性化の方針】

（１）もっと魅力を高めることで、みんなが訪れたくなる街を実現する

〇サンポートエリアや中央商店街のそれぞれの価値を活かして魅力を高める。インバウンドや観光客の増加に対応して、市民と来訪者が交流できる機会を増やし、中心市街地全体の誘客力をさらに高める。
➡目標：みんなが訪れたくなる中心市街地【中心市街地内の宿泊者数】

（２）もっと利便性を高めることで、みんなが回遊・滞在できる街を実現する

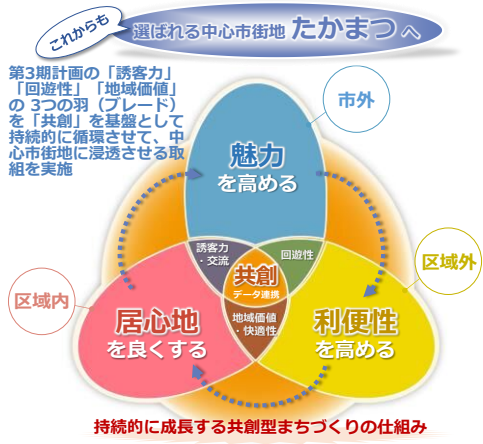
〇公共交通機関と連携したウォーカブルなまちづくりによって、利便性を高める。サンポートエリアからの誘客を促す環境整備によって、中心市街地の回遊性を向上させる。
➡目標：みんなが巡ってみたくなる中心市街地【歩行者等通行量（全日）】

（３）もっと居心地をよくすることで、みんなが住みたくなる街を実現する

〇滞留できる場所、休憩施設の充実など快適性の向上を図り、居心地を良くする。生活を支援する施設の充実や防災・減災に係る取組など安全・安心な空間を創出することによって、まちなか居住を促進する。
➡目標：みんな住みたくなる中心市街地【中心市街地の社会動態】

（４）官民共創・データ連携の強化により、これからも持続的に成長する街を実現する

〇各施策の投資効果を早く享受でき、最大限に引き出すことを目的とした仕組を構築し、官民がセクターを超えた連携による取組を促す。その取組を支える仕組として、データ連携基盤を活用しデータ駆動型のまちづくりを目指す。
➡目標：これからも持続的に成長する中心市街地【データ連携基盤を活用した事業数】



持続的に成長する共創型まちづくりの仕組み

【3期計画目標と数値】

目標	目標指標	基準値	目標値
①サンポートエリアにおける高次（広域）都市サービス機能の充実による誘客力の向上	中心市街地内の主要観光施設年間入込客数	2,744千人（H30）	2,890千人（R6）
②中心市街地の魅力発信による回遊性の向上	歩行者等通行量	92,639人（H29）	97,721人（R6）
	新規出店数	216店舗（H26～H30累計）	271店舗（R1.7～R7.3）
③拠点間交流と住環境の整備による地域価値の向上	中心市街地の社会動態	886人（H26～H30累計）	1,373人（R1.7～R7.3）
	ことでん3駅の乗降客	31,751人（H29）	32,057人（R6）

高松市中心市街地活性化基本計画の事業概要

みんなが訪れたくなる中心市街地

①瀬戸内国際芸術祭（ＡＲＴ ＳＥＴＯＵＣＨＩ）

・３年に一度「海の復権」テーマに開催する現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」のほか、開催年以外もイベント等による瀬戸内海の魅力発信を行い誘客を図る「ＡＲＴ ＳＥＴＯＵＣＨＩ」に取り組む。

・令和7年度は「瀬戸内国際芸術祭2025」を開催する予定。

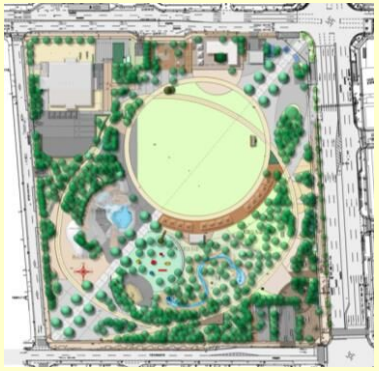
「カモメの駐車場」
木村崇人

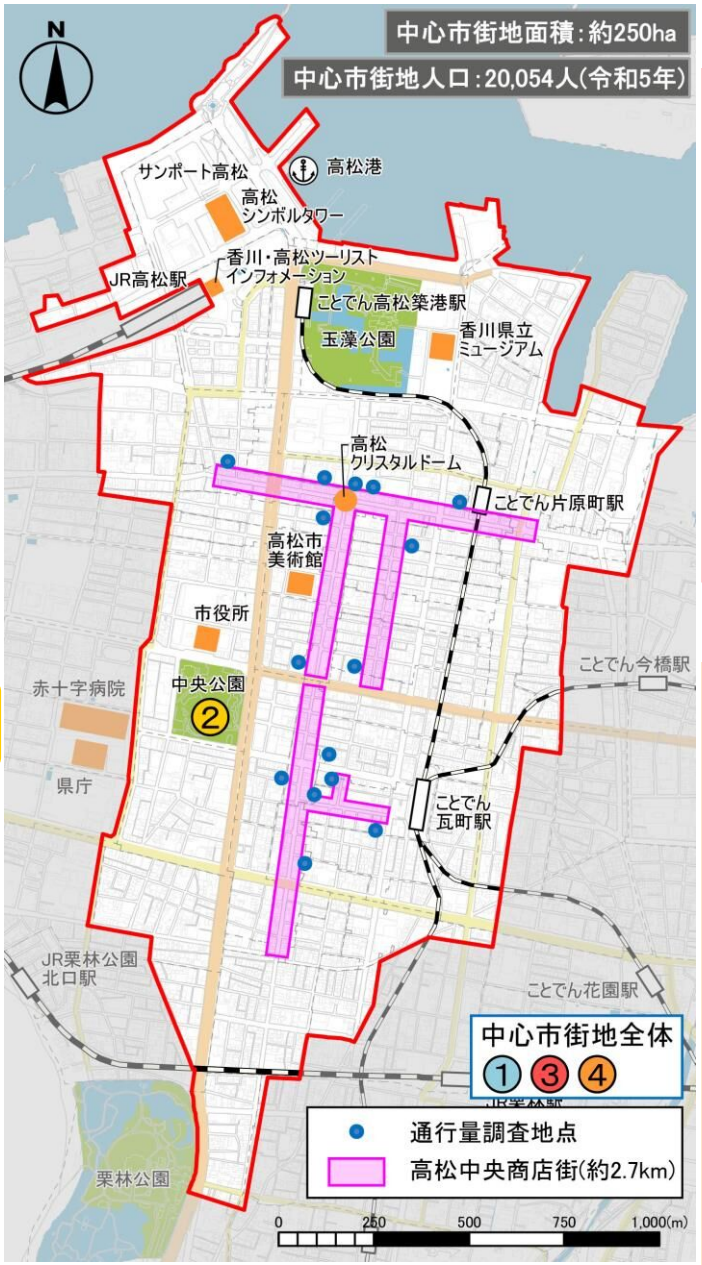
「ナビゲーションルーム」
ニコラ・ダロ(Nicolas Darot)

みんなが巡ってみたくなる中心市街地

②中央公園再整備事業

・公園全体の再整備に併せて、周辺道路を含む公園エリア全体のユニバーサルデザイン化やPark-PFI制度を活用した民間施設（飲食店）の設置により、公園の魅力と価値を向上させるとともに、民間が主体となった管理運営体制を構築し、周辺商店街や市民団体等との連携により地域全体の活性化を目指す。

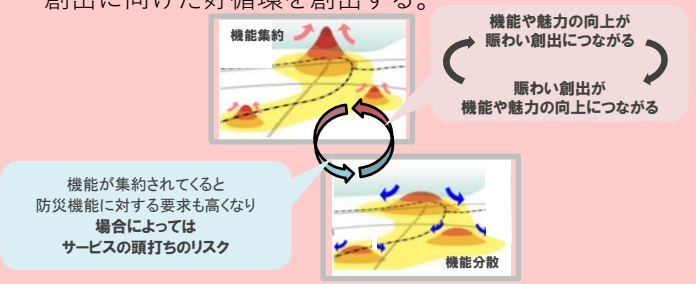




みんなが住みたくなる中心市街地

③逃げ遅れゼロ事業

・人や建物の密集により防災機能に対する要求が高くなる中心市街地において、デジタル技術を活用した効率的な防災機能の向上に寄与する仕組みを実装することで、中心市街地のアセットの価値を向上し、賑わい創出に向けた好循環を創出する。



これからも持続的に成長する中心市街地

④サンポートFACTプロジェクト（エリアマネジメント）

・民間が主体となったまちづくりを積極的に行えるように、新たな合意形成体（エリアプラットフォーム）によるエリアマネジメントを導入する。

・「サンポートFACTプロジェクト」では、公開空地の開放やイベント情報の一元発信など、社会実験の実施や「たかまつマインクラフトまちなみデザインコンテスト」の開催など、デジタルを活用しまちづくりへの新たな市民参画にも着手。